第１０５号　　令和８年１０月３０日

げんきな子　がんばる子　やさしい子

# 園だより

１１月号

北区立さくらだこども園
園長　西澤尚子

## 私の力 ⇔ みんなの力

１０月２５日(日)に、雨で１日延期となった運動会ができました。日曜日になったために参観できなくなった保護者もいて、子どもたちは「おうちの人みんなに見てもらいたかった…」という思いを抱えながらも、自分のもてる力をいっぱいに出しきって、運動会を楽しんでいました。

運動会がもう始まるというときに、４歳児が「ねぇ、どうして今日は私たち、バルーンをしないの？ちゃんとできるのに」と少し不服そうに私に言ってきました。「昨日、年長さんと一緒にしたらうまくいったんだよ。私たちも（おうちの人たちに）見せたかったのに」と。遊びの中で、５歳児が運動会でするバルーンの技を、その際に使う曲で４、５歳児が混じって一緒にしたそうです。年長の担任にほめられたことが自信になっている、と４歳児の担任が話していました。５歳児の力を借りた成功体験は、４歳児にとっての「自分への自信」につながっていることを感じました。

バルーンとは、パラバルーンという大きな円形の布をみんなで持っていろいろな動きや技をするものです。みんなの力、タイミングが揃わないと技がうまく成功しません。運動会当日の５歳児の演技は「みんなで成功させる！」の思いが表れたもので、大成功でした。

運動会の最後の競技は５歳児のリレーです。リレーと言っても取り組み始めの頃は一緒に走る隣の友達との競走だったところから、チームの勝利に向けて頑張る姿が見られるようになりました。リレーをし始めた頃は同じ順番で走る友達と差がついているともうやる気が出ずにスピードを緩めたり、自分が走り終わるとバトンの受け渡しは友達が受け取ったことを見ないで手を離したりといった様子でした。そこから、走ること、競走することを積み重ね、今は負けていても自分が一生懸命走れば仲間が追いついて、抜かして勝つかもしれない、と思って最後まで自分の力を精一杯出し切るようになりました。学級対戦をするようになると今度は、学級のどのチームが勝っても自分の喜びになっていきました。そして、学級のみんなで「チームで勝つためにはどうしたらいいか」と話し合いもしました。毎日のように学級対抗（学級ごとに各４チームで対戦）リレーをしていたので、徐々に学級みんなで力を合わせる意識が高まっていきました。運動会当日のリレーでは、どの幼児も最後まで諦めないで走りきる姿がありました。そして勝敗がついたときには悔しい思いを表情に表した幼児も、最後は堂々と退場していました。

自分の力とみんなの力がつながっていることが体験できるように、という願いをもって、５歳児の運動会ではパラバルーンやリレーに取り組んでいます。子どもたちは自分の力とみんなの力のつながりを実感していたと思います。また、子どもたちのこのような心の成長を読み取って、感想に書いてくださった保護者がたくさんいらしたことが、教職員の励みになりました。保護者の皆様の言葉が教職員を支え、さくらだこども園の教育をよりよくする力になります。

これからも子どもたちの多様な育ちを支えられるように、大人もそれぞれの立場で子どもに向き合い、つながっていけるようにと思っています。保護者、地域の皆様、今後もどうぞよろしくお願いたします。

### ―今月の指導のめあて―

〈４歳児〉
- 気の合う友達と遊ぶ中で、自分なりの思いやイメージを言葉や動きで表したり、友達の言葉を聞いたりし、相手には自分と違った思いがあることを知る。
- お話ごっこや楽器遊びなど、学級のみんなでする活動に取り組む中で、自分なりの表現を楽しんだり、友達と一緒にすることを楽しんだりする。

〈５歳児〉
- 友達と思いや考えを出し合いながら、遊びや活動を一緒に進め、実現していくおもしろさを感じる。
- お話の世界を想像し、自分なりに言葉や動きで表現したり、友達の表現のよさに気付いて取り入れたりしながら、表現することを楽しむ。

